

飼料用米を利用した豚飼養技術の確立

畜産研究部

1. 研究の背景

近年、輸入飼料用穀物が高騰しており、飼料用米はトウモロコシの代替として利用可能な国産飼料原料であり、その利活用に関心が高まっている。飼料用米はトウモロコシと同様の CP 及び TDN 含量を有しており、代替として多給が可能であるか確認する必要があることから、一般的な配合飼料給与区との比較試験を行った。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

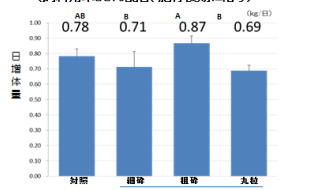
(1) 成果内容

- 1) 飼料の破砕粒度については、肥育後期より給与試験を行ったところ、1~2mm 程度に破砕した区の発育が良かった。
- 2) 配合の割合について試験を行ったところ、肥育後期より飼料用米を 70% 配合した飼料を給与しても発育・肉質に差は見られなかった。
- 3) 飼料の給与期間について、肥育前期から飼料用米を 1~2mm の粒度で 70% 配合し、出荷まで給与したところ、発育・肉質について差は見られなかった。

(2) 普及のポイント

- 1) 自家配合農場の飼料は飼料用米に移行しやすいので、普及を勧める。
- 2) 一年を通じて飼料用米を給与する場合の保管場所の確保が必用。
- 3) 飼料用米を給与した豚の付加価値を付けた販売方法の検討が必用。
- 4) 飼料用米を 70% 配合した肥育飼料はペレット加工が困難である。
- 5) 自給飼料率の向上、輸入飼料の低減より、飼料費のコストを安定させる方策として活用できる。

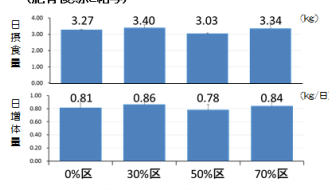
これまでの成果① [破砕粒度]
(飼料用米30%配合、肥育後期に給与)



暑熱環境下で増体成績を向上させるために
1~2mmに破砕した飼料用米の給与が有効

図1 飼料の破砕粒度

これまでの成果② [配合割合]
(肥育後期に給与)

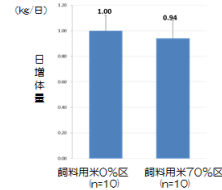


日摂食量、日増体量に差はない

飼料用米を70%まで多給できる

図2 飼料の配合割合

これまでの成果③ [給与期間]
(肥育前期より給与)



日増体量に差はない

飼料用米を肥育前期より70%まで多給できる

図3 飼料の給与期間

3. 期待される効果

養豚農家で肥育期間に国産飼料米を多給する技術として活用

4. 担当機関連絡先

畜産研究部 豚・鶏チーム

TEL:0974-22-0673

住所：豊後大野市三重町赤嶺 2328-8